

越谷も

YES, WE CAN.
「やればできる」

発行日:2012年3月31日

発行者:チーム白川

No.14号

事務所:越谷市大里 226-1
TEL/FAX 048-970-8005

『トライ&チャレンジ』 Try & Challenge

越谷の YES, WE CAN. Part XIII

「越谷がどうなっており、どうなりうるか」の考察

平成24年度の事業予算を決める3月議会(予算議会)が、2月23日より開催されています。予算総額1,554億円強は越谷史上最大の予算となっています。

3月議会に先立ち、桜井地区市政報告会で予算概要の説明が行われました。その前段に執行部より予算説明を受けての報告会であり、参加した市民から、この時期、税収減が著しい状況下で最大予算を組むことへの疑問が呈されていましたが、税収の入りと出がバランスしない予算案を、議会はどのように反応するのでしょうか?事前説明を受けることで、議員各氏は市民の反応を十分把握した上で議会に臨みます。桜井地区では、このような議員・市民双方が徐々に常識的な関係を作りつつあります。他の地域でもこの関係が理解され、実行されることを期待しています。

3.11はその意味で、市政に対する無関心さが私たちにどのような将来をもたらすことになるのかを問いかけているのではないのでしょうか。さらに一部、議会の中に市民に予算の事前説明をすることに対して、ハレーションを起こしている古い常識が存在していますが、このような考え方は新しい時代の「市民目線」に逆行する発言であり、市民から点検・検証を受ける必要があると考えています。(西川孝一)

グラウンドゴルフ

【リーダー会議と懇親会】 -2/29

3ヶ月に一度の「がんばろう越谷」大会の前にリーダー会議を開催。「官製」ではない自主運営で、ルール創りや運営面での新たな部署や仕事も創造してきた。今回は突然の積雪の中での開催にもかかわらず、多数のリーダーが出席された。懇親会では前の日から仕込んだ「おでん」とお手製の「焼きそば」と三味線等でおもてなしをし、心暖まる交流となった。

(三輪長宏)



政経セミナー第2期・第4回特別講座

自然エネルギーで変える 暮らし・地域・市場 -2/19

一原発事故後に見えてきた循環型社会を考えるー

環境エネルギー政策研究所の山下純明氏をお迎えして、今、私の身近な問題であり、地域共同体の役割と課題を学びました。グループ討議を行い、代表者(グループ内で



選んだ)がまとめた意見発表をするという新たな取り組みが行われ、まだまだ話し合っていたいという、熱気に包まれた特別講座でした。次回には、もっと多くの人に参加して頂きたいと、願っています。(渡辺初江)

◇ 次回は4/22に開催します。

「チーム白川」の会員を募集しています。問い合わせ先：事務局 岡村 090-3342-3064

☑ 第3回桜井地区市政報告会に参加

-1/13



テーマは12月議会の報告。資料として全議案に対する全議員の賛成・反対の審議結果が配布された(政経セミナー・統一ローカルマニフェスト2011の実行でもある)。市職員の給与引き下げで年額約2,500万円の削減となる。放物対策として学校給食・空間測定と除染作業・下水道、ゴミ焼却の最終処理の現状が報告された。徹底した市民への説明と情報公開によって、ごみ減量を促進する機会とすべきではないか。(三輪辰宏)

☑ 第4回桜井地区市政報告会に参加

-2/21

テーマは平成24年度予算案の事前説明と検査。3月の予算議会の前の開催という「決定する前、立案の段階から参加する」ものとして開催された。24年度予算は国と同様過去最大規模。収入不足を財政調整基金の取り崩しや臨時財政対策債による借金でまかなうと言うもの。既に2,000億円の借金を抱えながら、更に30の新事業が見込まれている。会場から「本会議で反対や修正案までないのか」というシビアな質問も出る。(三輪辰宏)

< 次回は4/1に開催します >



📅 第101回タウンミーティング -2/25

- 3月議会の課題 白川秀嗣議員
- デイバート

311被災地の「がれき」を越谷で受け入れるのか

市長から出される来年度予算案は史上最大規模で、赤字という問題を抱えており、質問が続いた。デイバートは「がれき」を受け入れるべきか否か、2班に分かれて行われ、当事者意識を持って参加するきっかけとなった。(岡村宣夫)



◆ 次回第102回(3/24)は次号に掲載します。
◆ 次々回第103回は4/21に開催予定です。

🔴 デイバートによる合意形成から見えてきた課題

タウンミーティングで設定された上記デイバートにおいて、震災による負担を日本全体で受け止めるべきだと思うので、最終的には被災地の瓦礫を越谷は受け入れるべきだと思っている。

今回、あえて「瓦礫を受け入れるべきではない」派に回り、意見を述べさせて頂いたが、受け入れ反対派の根底にあるものは、どうして自身の身に何か災い起こるかわからないという「不安」なのではないかと感じた。自分が一番かわいなのは当たり前で、否定はしない。しかし他者との共存を考えると、どこまで自分の考えを譲るか、または不安を取り除くにはどうしたらよいかを意見し合って考えてゆかねばならないのではないか。受け入れる、受け入れないは意見が分かれるが、どうしたら被災という問題を解決できるか、一方的に意見を言うだけでなく、自分とは違う意見も受け止めて、どこを合意点とするか全員が話し合って考えてゆかねばならない。(名倉 瞳)

🔴 越谷市議会主催の市政報告会に期待すること

◆ 昨年末には決まっていた「市議会主催の市政報告会」の詳細な内容が明らかにされないが、一市民としては議会への市民参加の期待が高まると同時に、実施するからには市民が望む形での開催を切望する。

◆ そこで、期待することを次の通り挙げてみた。

1. 【開催日】多数の市民が参加できるように、土曜日・日曜日や平日夜間に開催する。
2. 【一問一答】質問に対して、明瞭・明確な回答を一問一答形式で行う。
3. 【質問内容】市民が参加できる数少ない機会なので、定例議会の案件以外の質問も認める。
4. 【事前質問受付制】当日その場・その時の質問のみならず、事前の質問も受付ける。
5. 【議員当番制】13地区を4ブロックに分けて、議員を4チーム(8名/チーム)に分けると議会終了後に毎回、全地区で報告会を行うことができる。議員チームを毎回違う地区に移動させれば、1年間で議員が全地区総当たりで行える。
6. 【情報開示】当日配布した資料と議事録は、越谷市議会ホームページに後日掲載する。(狩 野)

編集後記

◆ 税収が減っているこの時期に、過去最大となっている来年度の予算に対しては、市民の常識的な目線から疑問が投げかけられており、議会がどのように対応するのかが問われています。一方で、多様な意見を持つ市民が、相互に意見を戦わせ、議論する中で合意点を見つけ問題解決を図ろうとする試みが進められています。自らの発言に責任を持ち、問題解決に主体的に取り組むことで、次の世代のためのまちづくりを支える市民の基盤を共に創っていきましょう。(岡村宣夫)

<http://shirakawa.mie1.net/>

🔴 実に面白い!「チーム白川」式デイバート!!

普段は互いを尊重し、励まし合い、目標と行動を共にする仲間なのだが、今日ばかりは違う。右と左に分かれ、互いに意見を主張する。「口撃」という名の戦闘が始まった。本当は相手の意見に納得し、心変わりしそうにもなる。でも負けない。心はフラフラとなりながらも、相手を倒すまでは。ありったけの自分の知識と能力と気力に鞭打ち、意見をぶちまけます。そろそろ、終了のゴングが鳴る。レフリー役の司会者が全員の気を静める仲裁に入る。双方のグループがその仲裁に納得し、また元の仲間に戻る。本気の「チーム白川」式デイバートは実に面白い。(蒲生・白井徳夫)

🔴 自立した市民を目指して

タウンミーティング100回記念から導入したデイバートを通して、市民同士の話し合いの場が出来つつあり、今まで発言のなかった人からも意見が出るようになりました。その事は大変な成果です。そして、今までであれば起こらなかった意見対立には学ぶことが多く、従来型の意識課題が鮮明にわかるようになりました。

自分と地域の問題は、本当に自分と地域だけの問題なのか、ここに大きな分岐点があります。そのことに気付いた人とそうでない人の意見は、同じテーマで話をしていても責任意識が全く違うのです。

ココの壁をどう超えていくのかが、これからの議員や市民に大切なことなのではないでしょうか。そのことを踏まえ、地域主権の本当の意味を共に考えていきたいと思います。

(岡田英夫)